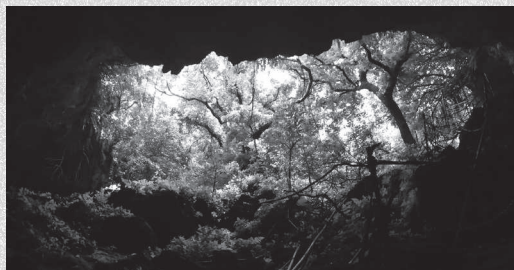


ほんとうにあった! ミステリースポット

① 霧の峠・人形供養



日本最強(恐)スポットベスト5	217
魔除けのいろいろ	214
ミステリースポット……解説	203
霊が招く河原	185
命どう宝	169
心霊トンネル	143
樹海	121



もくじ



消された場所	99
龍神の湖	81
絵馬	59
天狗憑き	45
人形供養	27
霧の峠	5



ぎりとうげ
霧の峠

カムイコタン●国道12号線●国道39号線



十月の朝、玄関を開けると、一面の濃い霧だった。

「行ってきます」

ミサキは駅までの道を歩きながら、同じような濃い霧の日を思い出していた。それは5年ほど前の出来事である。

その年の夏休み、北海道に家族旅行に行こうと父が言った。

弟の千早は、来年、全寮制の中学に入学することが決まっていた。

家族揃って、旅行に行く機会も、これからしばらくないかもしれない。

空港でレンタカーを借り、最初の目的地 旭川を目指す。

新千歳空港から高速道路を使えば、旭川までは二時間くらいだそうだが、途中、寄りたい場所もあるから、一般道で行く計画だった。

一般道路では三時間から四時間くらいかかるらしい。

「若いころ、オートバイで北海道一周したこともあるんだぞ」

ハンドルを握る父が、上機嫌で話している。

助手席には母。後ろにはわたしと双子の弟が座っている。

双子といっても、あまり似ていない。

丈夫なわたしと違って、小さなころから弟は身体が弱い。

「元氣はミサキが全部引き受けてしまった」と祖母が言っていた。

「元氣って何？」

祖母に聞くと

「元氣は元氣。今にわかるよ」

と答えた。わたしも、小学校の高学年になると、その意味が少しずつわかるようになっていった。千早は、変なものを見たり、感じたりすると、身体具合が悪くなるのだ。

わたしも同じように変なモノを見ることがあるが、千早のように病気にはならない。それが「元氣」ということなのだった。そして、もっと沢山勉強すれば、いろ